



ああ!!大浦湾!!愛を下さい!!

石原つや子

- 敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。(新約聖書 マタイ 5 : 44)
- つるぎを鋤とし、やりを鎌とし神の畑を共にたがやそう (ゴスペルソング)
- 植物を愛する者、海と海の生物を愛する者に戦争はない。(つや子)
- 平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる
(マタイ 4 : 9)

イラスト：大城旋律 (孫)

☆大浦の海と私達の闘い

大浦湾は悠久の海、何万年もの時を経て今がある。ヤンバルの山々から注がれる豊かな栄養分を頂いて、数えきれない程の命が生息している。サンゴ、海ガメ、ジュゴン、そしてアジサシ達も集ってくる。カイコガイという貝が瀬嵩の前浜に今も揺り上がるという。古代人は小宇宙のことを「カイコ」と呼んだという。小さなカイコ貝はそんな悠久の命の営みを私たちに感じさせてくれる。まさに大浦湾は小宇宙なのだ。こんなかけがえのない命の海、大浦湾をどうして?何故殺してしまうのですか、一体誰が許したというのですか。戦争と同じ、いったん始めてしまったらやめることが出来ない恐ろしい闇の力がうごめいているのです。そしてこの悪行に責任を持つ人はどこにも存在しないのです。私はまた同じ自作の歌を歌い泣くことしか出来ません。

♪海は泣いている～海は泣いている～海は泣いている～山も泣いている～山も泣いている～山も泣いている～サンゴも泣いている、海ガメも泣いている、ジュゴンはもういない、宝の海、命の海、辺野古の海は母の海、母の涙が満ちている、NO WAR NO WAR 命どう宝

あなたの心には殺されていく無数の命たちの叫びが聞こえませんか。お金に魂を売ってしまったのですか。岸田首相も防衛大臣も一度でも辺野古に来て海の声聞いて下さい。どうか政治家ではない人間になって人間の心で考え直して下さい。大浦湾はまだ埋め立てられていません。今ならまだ助けられます。玉城知事は心を引き裂かれる痛みをもって日本政府を相手に私たちの民意を受け止めて闘って下さっています。知事は埋め立て不承認を貫いて何度も裁判に訴えましたがすべては敗訴。最高裁判所を私達は最低裁判所と言い換える程に沖縄の民意を全く無視し、裁判の場に知事呼んで発言させることも一切しませんでした。玉城知事はたまりかねてジュネーブの国連に出向き人権委員会で訴えるしかありませんでした。沖縄県民の民意を全く無視して、辺野古新基地建設を強行する日本政府には民主主義はありません。世界の民主主義の国々には、この日本政府のあり様は全く異様に見えたことでしょう。そして何と玉城知事が国連に出向いている留守中に国交省は圧力をもって裁判での勝利を振りかざし、期限を切って、承認決断を強いる文書を送り付けてきました。問答無用の強行姿勢です。打ちのめされた私達の心に何とも言い難い悲しみの感情が湧き上がってきました。私達は県庁前広場で大集会を持ち、玉城知事を支え励まし続け、最後の最後まで闘って不承認を貫き通すことを求めました。国の代執行という最終的結果が見えていたとしても知事と私達は沖縄の心を捨てはしません。沖縄の作家、大城立裕さんの言葉です。「ヤマトと付き合うことは常に我慢が伴う、我慢し耐えるが、決して諦めない」と。国交省による私人なりすまし、権力救済制度を濫用し、政府と司法が一体となって沖縄を差別し、捨て石にするのですか。本土の人達が自分事として考えて下さることを願っています。大浦湾の埋め立ては軟弱地盤と90メートルの深さがあり、7万1千本の杭を打たなければならず、不可能とも言われています。何十年かかるのかも分かりません。予算は2兆6千億とも言われています。一日の警備費が何と2600万円かかっています。そして普天間基

地は返ってはきません。納税者の国民が何故黙っているのでしょうか。このまま憲法9条を捨てて戦争出来る国へと、軍事力拡大に進んでもいいのですか、一人一人が問われています。

○青く澄んだこの海、緑萌えるあの森、命はぐくむ故郷をあなたと守りたい、あなたと守りたい
(辺野古歌集)

○世界のおさなる神のめぐみ 平和を愛する民にあれや 神よすみやかに与えたまえ 平和と愛とのきよき朝を(さんびか)

大浦の海に手をつけてはいけません、絶対に!! 神は生きている、神を畏れよ。

☆若者と共に

シニア世代中心の私達の市民運動にはどうしても限界があり、先の展望が開けません。私達は若者達と共に生きる活動を作っていくといつも切望してきました。そのことが今動き出し実現しているのです。先日24日には「沖縄を再び戦場にさせない県民の会」キックオフ大集会が持たれました。この会での司会進行役は男女二人の若者で、実に素晴らしい進行役を務めました。リレートークでも若者の発言は感性豊かで新鮮で、私たちシニア世代の心に大きな喜びと希望を与えてくれました。一人の女性の発言が私の心にズシンと響きました。「私たち若者のことをむやみに今の若者はなどと批判しないで欲しい。私たち若者はちゃんと考えているし行動しています。若者を信じてほしい。」若者が正直な気持ちを話して下さったことが嬉しくてなりません。何だか新しい希望が湧き上って私は若者に心からのエールを送り、感謝しました。あなた達と共に頑張りたい!!それが確かな喜びであり希望なのです。若者の感性から生れた言葉には新鮮な生命力と説得力があります。その言葉を頂いて私は新しいプラカードを友人に作ってもらいました。

ミサイルよりおむすび 争うよりも愛しなさい

私は若者達の時代が平和であることを祈り、共に生きたいと願っています。

○人は一人では生きていけない、互いに癒し癒されて、互いに咲かし咲かされて、感謝と絆で結ばれて、青い地球(ほし)で光り輝く

若者との間に壁を作らずありのままを認め合い、尊敬し合い、あなたとわたし、若者とシニアたち、ユイマール、共に平和を作っていきましょう。

☆平和は対話から

人はいとも簡単にニセ情報を信じます。権力者は国民感情を政治的に利用しようとマスコミと一体となって国民の意識、感情を都合よく醸成していきます。かつて、日本政府はアジアの国々を解放する正戦と称してアジアの国々を侵略しました。天皇のため、お国のために死ぬことを最高の荣誉だとだまし、敗戦へと落ちていく戦況を勝利しているとだまし、戦争を続行して、沖縄戦、広島・長崎の原爆投下へと破滅の道をたどりました。だまされた若者達は尊い命を国によって奪われたのです。私たちは再び同じ過ちを犯してはなりません。今、日本政府はミサイルを配備し、世界第三位の軍事大国への道をまっしぐらです。増税、増税、多くの70%の国民は中国、北朝鮮脅威論にあおられて、安全保障のためだと言って増税はNOでも軍拡を容認しています。恐ろしい危機的状況が急速に進行しているのです。最近のニュースに、日中韓による首脳会議が計画されているとのことを知り喜ばしく思いました。アメリカの思惑に振り回されるのではなく、日本独自の対話外交によってねばり強く対話を重ねて絶対に戦争をしない約束を三国で取り交わすことが平和への道です。あなたはわたしにとって大切な国です、協力して共に生きていきましょう。わたしはあなたと共に生きる、ユイマール、命どう宝、この沖縄(ウチナー)の心を外交の中に生かして欲しいと強く望みます。まずは愛することから始めましょう。玉城知事が努力されているこの沖縄独自の外交を支援していきましょう。日本政府はどこを向いていますか、アメリカですか、アジアですか。平和への道は目の前の一步に見えています。武器をとることをやめましょう!!争うよりも愛しなさい。

☆脱原発、汚染水海上放出に反対します

福島原発事故から 12 年、いまだ故郷に帰れない人達がいるというのに、汚染水を海上放出してこの上また漁業者を苦しめるのですか。ALPS での処理水は科学的根拠により安全だと、IAEA のお墨付きをもらい、政府マスコミー体となって安全をアピールし、海産物全面輸入禁止の中国を非難しています。EU など原発保有国は自国の原発からもトリチウム水が放出されていることもあって強く反対することが出来ないのです。世界各地の原発周辺からは子供の白血病が発生していることが報告されています。これらの原発から放出されるトリチウム水と福島核に触れたトリチウム汚染水は明らかに異なるものです。その上 ALPS で処理しきれないセシウム、ストロンチウムが含まれている、真に危険な核汚染水なのです。ある科学者は報道番組でセシウム、ストロンチウムが除去されるまで待つべきだと発言しましたが、その後、その声は抹殺されたかのようです。IAEA とは国際原子力機関とのこと、主な目的は原子力平和利用の促進、軍事利用されないことの検認、原子力安全確保などです。日本の IAEA への拠出金額は約 63 億円、日本の分担率は全体の 10%を超えています。IAEA は本当に中立なのか疑わしいものです。IAEA のお墨付きには何の根拠もないのです。海水で薄めて大海に放出して検査の結果基準値を大巾に下回っていて安全だと発言していますが、こんなだましのトリックを誰が信じるでしょうか。真実を隠し、国民をだます手法は今も変わっていないのです。だからこそ私たちは真実を知りだまされない国民にならなくてはなりません。汚染水放出は 30 年~50 年続きます。その後何かが待っているのでしょうか。IAEA はじめ責任をとる人間は存在しません。魚介類を食した体は内部被爆し、遺伝子も傷つき人間の生存を脅かすでしょう。地上は雨によって有害物質に汚染されるでしょう。水俣で起きた悲惨な苦難を決して忘れず、汚染水海上放出をやめなくてはなりません。すべてが破綻している深刻な原発問題と向き合い、日本こそは原発ゼロを宣言すべきだと思います。今や弱小自治体は生き残るために核のゴミ受け入れ調査を申し出る所も出ています。地震大国がいかにして核のゴミを何千年も保管出来るのでしょうか。今、世界中の国々が人類を破滅に導く核と向き合い、核廃絶、原発ゼロに向けて方向転換すべき時です。警告が発せられている今こそ、手遅れにならない内に!! 神よ私たち人間を憐れみ、助け、導いて下さいと祈ります。

☆ロシア、ウクライナ戦争の終息を祈ります

○知恵は武器にまさる、一度の過ちは多くの善をそこなう（旧約聖書 コヘレト 9：18）

「武器を下さい、武器を下さい」は戦争拡大の道。アメリカ、EU は武器供与をやめてプーチンとの対話の道求め、呼びかけましょう。ゼレンスキー大統領はご自分の命を差し出す捨て身の覚悟をもってプーチンと向き合い、ウクライナの独立と国民の命を守りぬくために、プーチンとの対話を重ねましょう。EU がキリスト教信仰の国と言うなら「敵を愛しなさい」の祈りで立ちはだかる厚い壁を愛によって打ち破り、対話を重ねて戦争を終息させましょう。みんな同じ人間、戦争終息の願いはひとつです。絶対に戦争をやめて平和をつくる事が出来ると私は信じます。人間に愛がある限り。

☆命をつなぐ農業

日本列島はこの夏、観測史上最高の暑さでした。また期間も長く 9 月になっても 30 度を超える日が続きました。異常気象という言葉は通常となり、いよいよ人類は厳しい試練の時を迎えています。沖縄は 8 月の台風 6 号の長期間の影響により、停電、ネット不通などによりさまざまな職種や生活に支障をきたしました。あの時スーパーの棚は空っぽになって、食品が消えたことに衝撃を受け、私たち現代人の生活のもろさを見せつけられました。ひとたび戦争や自然災害などの異常事態が起きたら、私たちは飢えてしまうことでしょう。便利な生活と飢えは紙一重なのです。ウクライナ戦争の影響は世界中に及び、燃料費の高騰、円安の直撃による物価上昇は、私たちの日常生活を直撃しています。規模の大きい酪農家や大農場経営者は、家畜用飼料、化学肥料、農薬価格の高騰により赤字経営となり、経営困難に陥っています。そんな中で化学肥料、農薬を使わない有機農業経営者は強みを発揮して元気です。有機農業の開拓リーダー、

医師でもある故梁瀬義亮が 1975 年に語っている言葉を御紹介します。

《化学肥料と農薬を主体にした近代農業は、土を殺し、天敵を殺し、欠乏かつ毒性あるその農産物は人を殺すいわゆる「死の農法」である。有機農法、すなわち「土から出たものは土にして土に返せ」の原理にもとづく農法は、生態学的輪廻の法則に忠実な農法で、人間の農法はこれ以外にない。つまり堆肥農法の中にのみ農はあり得る・・・と。》有機農法こそは人間の命を守り育てる農法であり、真の平和へとつながるものだと思います。資本主義の中での大農場経営のもろさを見る時、試練に耐え、いつまでも残るものの真の価値を私達は見出し続けていかなくてはなりません。人類の限りない欲望が今、異常気象となって人類を苦しめています。「このままではいけない」のです。欲望の先にあるものは人類滅亡であることをいま、共に考えましょう。

☆うるま島ぐるみの活動から

私が暮すこのうるま市の陸上自衛隊勝連分屯基地にはミサイル部隊 200 人体制が 23 年度中に予定されています。工事は 24 年度も続き、体育館、倉庫、燃料施設などの整備、隊員、家族の居住宿舍整備などに 48 億円が計上されています。分屯地内には保安林があったことが分りましたが、その保安林は米軍によっていつの間にか消滅していたことが分りました。保安林は森林法によって守られていて勝手に伐採することは許されていないにもかかわらずです。その場所にミサイル基地が造られます。ここ勝連分屯地が沖縄島最大のミサイル前線基地になるのです。移動しながら発射する地对艦ミサイルですから、うるま市内や沖縄島全域が発射基地になります。もう既に現在、ミサイル発射装置車、ミサイル運搬、装填装置車などが 18 両、ミサイル 22 発が配備されているそうです。恐ろしいことです。日本政府が盛んに煽っている台湾有事が実際に勃発し中国との戦争になれば、連隊本部が置かれている勝連分屯地が真っ先に狙われると言います。近くには学校、民家などがあります。私達うるま島ぐるみは、去る 27 日にミサイル配備断念を求める市民大集会を開催しました。550 人程が大結集して訴えました。中村正人うるま市長に対しては市民説明会開催を求めました。ミサイル連隊本部の創設断念を求める決議の中の一部を御紹介します。バイデン大統領は「岸田首相を米国へ度々呼んで、自衛隊の敵基地攻撃能力を保持すること、防衛予算を GDP 比 2%へ引き上げることを約束させた」と語りました。岸田首相は昨年 12 月国民への説明もなく、国会審議もないまま「安保三文書」を閣議決定しました。日本の安全保障政策を「専守防衛」から「敵基地攻撃能力の保持」へと大転換し、防衛予算も「5 年間で 43 兆円」積み上げ、世界第 3 位の軍事大国への道を打ち出しました。——私達はこの大軍拡政策に反対し、闘いぬく覚悟を共有し「頑張ろう。」の決意で連帯しました。私達はうるま市民を対象にミサイル配備、ミサイル連隊本部創設の断念を求める署名活動を開始しました。市民運動は辺野古に止まらない、絶対に戦争を起こさせないための広い闘いとなり、体力、気力を充実させ共に心ひとつに頑張っています。NO WAR。

辺野古基金のために 引き続き御協力お願い致します。

○つながるカウつぐみの会 (大野悦子:福生市在住)

リサイクル着物からの作品：(*大・小の手提げ袋*マイバック*洋服など)

○あみの会 (山田博子:うるま市在住)

リサイクル系の作品：(*各種帽子*アームカバー*ルームシューズなど)

リサイクル着物、糸と不要になったセーターなどの提供と作品販売に御協力下さい。

提供下さる方は必ずご連絡下さい。 両窓口：石原つや子

〈連絡先〉〒904-1115 うるま市石川伊波 1180-5 石原つや子

自宅：098-964-3237 携帯：090-4471-1942

Email：yuuwanoie@tg7.so-net.ne.jp

〈振込先〉ゆうちょ銀行 記号：12260 番号：12650271 イシハラツヤコ

